

施策番号	333	施策名	青少年の健全育成	令和5年度主管課名	生涯学習課
総合計画 体系	政策名	3	創造豊かな教育・文化の里づくり	令和5年度課長名	小原 克則
	関係課名	子育て支援課	学校教育課	シート作成者	日下 隆春

1. 施策の対象と意図の指標

①施策の対象(誰、何が対象か)	③対象指標(対象の数・規模)	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 町内の未成年者	→ ア 未成年者数	人	見込値 実績値	 2,071	 1,962	2,100 1,811	2,100	2,100
イ	→ イ		見込値 実績値					
ウ	→ ウ		見込値 実績値					
②施策の意図(対象をどうしたいのか)	④成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 心豊かにたくましく育ってもらう	→ ア 検挙された非行少年数	人	目標値 実績値 達成率	2 5 40.0%	1 2 50.0%	1 1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
イ 健全な育成を図る	→ イ 青少年の不良行為件数	件	目標値 実績値 達成率	6 1 600.0%	5 2 250.0%	4 1 400.0%	3 300.0%	2 200.0%
ウ	→ ウ 青少年が健全に育っていると感じている町民の割合	%	目標値 実績値 達成率	61.0 64.8 106.2%	62.0 63.1 101.8%	63.0 62.7 99.5%	64.0 98.0%	65.0 96.5%
エ	→ エ		目標値 実績値 達成率					
⑤成果指標 設定の考え方	青少年が健全に育成されているかを測るための非行少年の数、 不良行為の件数を指標とした。また、住民意識調査の直接的諮問 である項目を指標とした。		⑥成果指標の 把握方法と 算定式等	ア、イ 津山警察署資料 ウ 町民アンケート				

2. 施策の役割分担

①住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	②行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
・地域は子どもを見守り、安心・安全な環境を整えていく。 ・大人は、子どもの手本となるようなモラルのある行動をする。 ・事業所は、子どもが危険を感じている場合には安全に保護する。	行政は、地域・各種団体との連携してネットワークを構築する。また、家庭教育講座などの充実を図っていく。

3. 評価結果

5年度
の評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因

①施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か?その要因は?)

町民アンケートによる「青少年が健全に育っていると感じている町民の割合」は前年度より微減し、目標値を下回ったが、青少年の非行数や検挙数は双方1件のみで、前年度より減少しており、青少年の行動が悪化しているわけではないと感じられる。地域では、住民による小学校の登下校の見守り活動や三世代交流会なども開かれ、地域ぐるみで子供達を見守り育てるという意識が醸成されている。また、行政が行う地域学校協働活動や家庭教育支援チームによる事業も軌道に乗りつつある。

☐ 目標値を上回る
☒ 目標値どおり
☐ 目標値を下回る

②成果指標の時系列比較(成果は向上したか?低下したか?要因は?)

町民アンケートでの青少年が健全に育っていると感じている町民の割合は年々低下しつつある。コロナ禍での地域行事の減少などにより、青少年と接する機会が減少したことも一つの原因と思われるが、前述のとおり町内における非行や不良行為は減りつつあり悪化しているわけではない。5年度は「鏡野町中学生だっぴ」を開催し、青少年と地域の大人たちが対話し、お互いを理解し合える機会をつくることができた。また、町では「鏡野町子ども基本条例」を制定し、子どもの最善の利益を尊重する指針を定めた。こうした取り組みの成果が今後良い方向につながると考えられる。

☐ 向上した
☒ ほとんど変わらない
☐ 低下した

③他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)

岡山県の令和5年に検挙・補導された20歳未満の少年の数は508人で、前年比73人増、2年連続の増加となっているが、鏡野町においては、未成年の検挙数は年々減少している。市町村ごとのデータは公表されていないため近隣自治体との比較はできないが、県内全体を概観すれば高い水準にあると思われる。その背景として決定的なものはないが、通学時の見守りなど地域の人々の目が他地域よりも青少年へ行き届いていることが一つにあるかもしれない。

☐ 高い水準
☒ ほぼ同水準
☐ 低い水準

2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など

コロナ禍の影響による地域行事の減少や、個人情報保護の観点から、地域の子どもの様子を把握することが難しくなっている。町内においては、北部は幼少期からの顔見知りが多いためこうした傾向は希薄であるが、南部は転入者も多いため、行き届かない面が強いようである。

3. 施策の振り返りと総括(5年度の事務事業や取組の成果は?うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)

①施策の成果向上につながった主な事務事業

おかやま子ども応援事業

②施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業

かがみのつ子表彰事業

③施策全体の振り返りと総括

学校支援地域本部や放課後子ども教室事業などの取り組みも軌道に乗りつつある。また、「鏡野町子ども基本条例」の制定により、今後さらに青少年の安心安全を保障する事業が重視されると思われ、その成果の向上が期待できる。「鏡野町夢づくり事業」本年度は年度途中からの実施だったため、周知が徹底していなかったせいか参加者が少なかったが、参加者は貴重な経験ができたようで「後輩たちにも是非続けてもらいたい」という意見が多く、今後も事業を継続していきたい。かがみのつ子表彰事業については、地域のつながりが希薄になりつつあることにより、地域の区長による推薦が困難となってきている。「地域で子どもを見守り、育てる」というコンセプトを維持しつつも従来の推薦方法を見直す必要がある。

4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)

①今後施策の成果向上につなげる主な事務事業

かがみのつ子表彰事業、鏡野町夢づくり事業

②施策全体の今後の課題と改革改善の方向

かがみのつ子表彰事業については、開始から30年近く経過し、開始当初と比較して社会情勢も変化している。こうした中で、当初の目的を変えることなく、地域住民で子ども達の頑張りを評価し、表彰に繋げていくような推薦方法や表彰式の形態など、事業の見直しを図る必要がある。地域学校協働活動や家庭教育支援チームによる事業も引き続き推進し、地域、行政、学校の連携を強化していかなければならない。鏡野町夢づくり事業は、令和6年度は周知を早めに行なって事業を理解していただき、多くの中学生が価値のある体験が行えるよう、参加者の増加に努めていきたい。